

看取り解除となり多職種連携のもと 施設退所に導くことができた1例

—緊急事態宣言の中、故郷秋田へ—

施設名：介護老人保健施設友愛園

発表者：稲嶺仁

【はじめに】

今回、当法人病院から看取り対象として当園入所に至った事例を担当させて頂いた。多職種連携のもと御本人希望である故郷秋田県の施設へ繋げることができたので報告する。

【事例紹介】

90代、女性、介護度：要介護4 COM：構音障害あり声量低下著明、自発語乏しいが指示理解ありKP長男。秋田県出身、長男の沖縄転勤に伴いH.29.6月から沖縄で長男夫婦、夫と四人暮らし。

【現病歴】

2020.11/19 右被殻～放線冠脳梗塞で入院。同年8月にも右尾状核、左被殻・放線冠脳梗塞を発症していた経緯あり。2021.1/8. 看取り目的での入所となる。

【PT 初期評価】

寝返り：能力的に可能も自発性乏しい 起き上がり：全介助 端坐位：支え介助 移乗：全介助 車椅子座位：ティルト型30° 移動：車椅子全介助。

【経過】

2021.4/9. 御家族の転勤に伴い自宅近隣の施設に母を帰してあげたいという相談。4/20. 看取り対象解除の判断。ご本人にもお伝えする。5/6.1 回目多職種カンファレンス開催し 5/26 退所を目標に調整していくことを決定。5/7.1 回目家族指導実施。5/21. 政府より沖縄県に5/23～6/20までの期間、3度目の緊急事態宣言の追加が決定。退所先特養から受け入れ延期と渡航後2週間のホテル滞在依頼あり。6/1.2 回目多職種カンファレンス6/4～6/7 退所先環境を想定したADL練習6/9.2 回目家族指導。6/23. 退所。

【課題と取り組み】

1. 離床耐久性が乏しいため離床時間を調整実施。
2. 座位耐久性向上目的にシーティング実施。
3. ホテル環境を想定しエアマット変更評価。
4. 空港待機中の栄養提供場面を想定した評価と練習。
5. ホテル環境を想定した車椅子の変更。
6. 車椅子がない場合を想定した食事提供評価。
7. 家族指導
8. 指導内容再確認のための資料提供。

【PT 最終評価】

寝返り：促しで可能 起き上がり：一部介助 端坐位：柵に掴まり1分可能 移乗：中等度介助 車椅子座位：最大2時間可能

【結果と考察】

コロナ禍、緊急事態宣言の中で無事故郷秋田の施設退所に繋げることができた。要因の1つとして御本人の希望と御本人の希望に寄り添う御家族の献身的協力があったことが考えられる。また、これがきっかけとなり施設長、師長による全身状態評価から、看取り解除の判断に繋がった。当園の取り組みとして、多職種カンファレンスにて情報共有を行い、早期の連携に繋げることができた。退所に向けて、それぞれ専門的視点からのアプローチや家族指導を実施した。課題に対する取り組みとして、リハビリでは離床耐久性向上を図り、長距離移動に備えるためのポジショニング指導、ホテル環境を想定した評価や指導を実施した。結果、退所する頃には離床耐久性も上がり、表情に余裕が見られるようになった。これはシーティングによる姿勢調整とフロアスタッフ一体となって取り組んだ毎食離床して食事提供を実施し続けたことで実現できたと考える。また、ホテル環境を想定した評価や家族指導では、ティルト型車椅子で食事提供していた状態をベッド上ポジショニングにて、近い環境を再現し、ご家族対応で食事介助が行えるような指導を実践することができた。早期から多職種連携による情報共有を行ったことで、退所後の環境を想定した評価や練習、家族指導が実施できたことで実現できたと考える。

【まとめ】

このように、今回、看取り解除後、故郷秋田への退所に向け担当させて頂き、緊急事態宣言中の厳しい中、多職種連携のもと故郷秋田の施設退所に繋げることができた。まれな事例であり、課題も多く、退所後の経過を追うことで今後の改善点も多くあることに気づかされた。今後の取り組みとしては退所先施設での経過や、御家族からの御意見を情報収集することが、これからのより質の高いサービス提供へとつながるのではないかと考える。